

30年12月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 12月1日～ 30年12月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は10社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

| 品目 | | 30/12月 | 31/1月 | 2月 |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 入荷動向 | スギ・ヒノキ | 0.0 | △ 25.0 | △ 25.0 |
| | マツ | △ 22.2 | △ 16.7 | △ 27.8 |
| | 広葉樹 | △ 20.0 | △ 20.0 | △ 60.0 |
| 消費動向 | スギ・ヒノキ | 14.3 | 7.1 | 7.1 |
| | マツ | △ 6.3 | △ 6.3 | 0.0 |
| | 広葉樹 | △ 5.6 | △ 16.7 | △ 11.1 |
| 在庫動向 | スギ・ヒノキ | 7.1 | △ 21.4 | △ 21.4 |
| | マツ | △ 12.5 | △ 18.8 | △ 18.8 |
| | 広葉樹 | △ 33.3 | △ 22.2 | △ 22.2 |

・スギ・ヒノキのチップ用国産原木の集荷動向は、12月の横ばいから1月、2月は減少に。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。
・スギ・ヒノキの消費動向は3カ月連続増加。マツは12月、1月の増加から2月は横ばいに。広葉樹は3カ月連続減少。
・スギ・ヒノキの在庫動向は12月の増加から1月、2月は減少に。マツ、広葉樹は3カ月連続減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

| 品目 | 30/12月 | 31/1月 | 2月 |
|--------|--------|-------|------|
| スギ・ヒノキ | 12.5 | 18.8 | 6.3 |
| マツ類 | 5.6 | 11.1 | 11.1 |
| 広葉樹 | 5.0 | 5.0 | 5.0 |

・チップ用国産原木の購入価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類とも強含み。
・広葉樹は横ばい推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・12月はチップ機入替えのため稼働減。消費はやや減少（東北）。
・先月同様、バイオマス燃料向けに原木が流れているため仕入減少。特に山形県内への流出が大。広葉樹は森林再生事業により入荷量増加。在庫はスギ1.0→0.5カ月、マツ類0.1→0.3カ月、広葉樹1.0→2.5カ月（東北）。
・先月に続き台風災害による倒木の材の入荷が多い。しかし、針葉樹材の確保は今後ますます厳しい状況になると考える（関東）。
・針葉樹の入荷・消費が多く、広葉樹の入荷減少が続く。在庫も同様の傾向（中国）。
・天候も安定し、スギ・ヒノキの仕入・消費は当月やや増加見通し。翌月、翌々月は積雪の心配もありやや減少の見通し（四国）。
・全樹種とも順調な入荷が予想される。11月は製紙や発電所の年次点検によりやや減産したが、12月は通常月に戻った。1月は製紙用針葉樹チップの増産依頼があるので、その分広葉樹チップの消費を少し減らすこととなる。12～2月の広葉樹・針葉樹の生産割合の変更に伴い、針葉樹丸太の在庫が少なくなり広葉樹丸太が増加すると思われる（九州）。
・広葉樹原木の仕入は困難状態が続いている。先月の広葉樹原木入荷が微増だったことにより消費はやや増加。広葉樹原木の確保が難しく在庫は少ない状態が続いている。スギ・ヒノキ、マツの原木は基本仕入なし（九州）。

(原木価格)

・先月同様、バイオマス燃料の価格上昇により原木購入価格はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも高値安定（東北）。
・購入価格は横ばいで変動なし（中国）。
・3カ月連続横ばいで推移（四国）。
・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも変化はないと思われる（九州）。
・広葉樹は横ばいで推移（九州）。

30年12月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

| 品目 | | 30/12月 | 31/1月 | 2月 |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 生産動向 | スギ・ヒノキ | 14.3 | 0.0 | △ 7.1 |
| | マツ類 | △ 6.3 | △ 12.5 | △ 12.5 |
| | 広葉樹 | △ 11.1 | △ 27.8 | △ 22.2 |
| 出荷動向 | スギ・ヒノキ | △ 12.5 | △ 12.5 | △ 18.8 |
| | マツ類 | △ 22.2 | △ 22.2 | △ 22.2 |
| | 広葉樹 | △ 10.0 | △ 30.0 | △ 25.0 |
| 在庫動向 | スギ・ヒノキ | 0.0 | △ 25.0 | △ 25.0 |
| | マツ類 | △ 21.4 | △ 28.6 | △ 28.6 |
| | 広葉樹 | △ 31.3 | △ 31.3 | △ 31.3 |

・スギ・ヒノキ木材チップの生産動向は12月の増加から1月は横ばい、2月は減少に。マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。
 ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹チップの出荷動向は3カ月連続減少。
 ・スギ・ヒノキの在庫動向は12月の横ばいから1月、2月は減少に。マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

| 品目 | 30/12月 | 31/1月 | 2月 |
|---------|--------|-------|-----|
| スギ・ヒノキ類 | 7.1 | 0.0 | 0.0 |
| マツ類 | 6.3 | 0.0 | 0.0 |
| 広葉樹 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

・木材チップの出荷価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい推移。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・スギ・ヒノキ、マツ類チップは原木入荷量の減少により出荷量も減少。広葉樹は横ばい（東北）。
- ・原木の入荷状況に伴い生産も減少。広葉樹は生産、出荷、在庫ともに減少が続く（中国）。
- ・製紙、ボード、燃料用の受入抑制は無く、スギ・ヒノキの翌月、翌々月の生産・出荷見通しは積雪の心配もありやや減少。生産した分の出荷のため、在庫は横ばいからやや減少（四国）。
- ・11月の製紙や発電所の年次点検によりやや減産した状況から、12月は通常月の生産に戻った。1月は製紙用針葉樹チップの増産依頼があるので、その分広葉樹チップの生産を少し減らすこととなる。当社はチップの在庫は持たないこととしている（九州）。
- ・先月の広葉樹原木入荷の微増により、生産、出荷ともやや増加。広葉樹チップの当月在庫はなし。基本在庫は置かない（九州）。

(木材チップ価格)

- ・出荷価格はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばいで変動なし（中国）。
- ・3カ月連続横ばいで推移（四国）。
- ・出荷価格はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばいで変化なし（九州）
- ・広葉樹チップは横ばいに推移（九州）。